

Moshi- Mosu

もっと知れば、
もっと好きになる！
長岡京市の歴史・文化財

III

VOL.17
2021
Summer

May the day come when children can play at historical sites.

2020年、新型コロナウイルス感染症によって、私たちの生活は一変しました。
外出自粛により子どもたちが公園で遊ぶことさえ難しくなっていました。

それでも変わらないものがあります。

私たちが大切にしてきた“文化財”は、新しい時代へ繋いでいかなければなりません。
そして、再び史跡公園にも賑わいがもどることを願っています。

長岡京市文化財保存活用地域計画

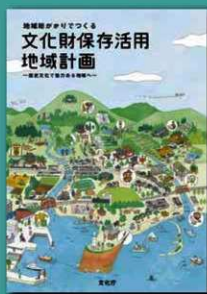
Cultural property preservation and utilization regional plan



歴史文化を守り・伝える

長岡京市は、古くは「第国宮」と「長岡京」という2度も首都が置かれたまちです。惠勝山古墳をはじめとする国史跡乙訓古墳群や長岡京跡の遺跡などが存在し、さらに、中世には勝勝寺域を中心に桂川西部の西岡地域の拠点的な役割を担いながら、京都の生活を支える農村として発展してきました。また、水運や街道などの交通の要衝として栄え、現在に続く、京都や大阪のベッドタウンや工業都市となっています。このように紡がれてきた歴史文化は、今なお市内に点在し、市の誇りや魅力となり、歴史あふれるまちを構成しています。これまでも、こうした歴史や文化の継承は、市史編纂調査や史跡整備により進められてきましたが、「長岡京市文化財保存活用地域計画」を作成すると、市民の方が次世代へ伝えたいものを一緒に考えていけるようになります。文化財の枠を超えて、保存・活用・活用のビジョンを広く共有し、みんなで伝え、みんなで活かす総合的な取り組みを進めていきたいと思います。

地域計画ってなに？



少子高齢化や都市化、自然災害、環境の変化などにより、文化財の滅失や散逸等の危機が全国的にも顕著となっており、平成30年の文化財保護法の改正により、計画的・継続的な文化財の保存・活用を進めるための「文化財保存活用地域計画」が法定化され、国の認定を受け、市町村が確実な取り組みを展開することとなりました。

長岡京市の文化財の特徴

長岡京市には、乙訓古墳群や長岡京跡などの遺跡・遺物、市内の社寺が所有する美術工芸品や建造物、境内地の天然記念物、街道沿いの建築物など、多くの指定・登録文化財があります。また、未指定文化財等は1,000件を超えており、社寺を中心とした景勝地や、西山山麓の信仰文化、竹とタケノコの農産物など、多様な歴史文化が複層的に存在しています。これらのあらゆるジャンルの文化資源を総合的・一体的に保存・活用するために、文化財だけでなく、文化や景観を含めたネットワークによって、様々な視点からのストーリーをつくることができます。



作成の流れ・スケジュール

地域計画を作成することにより、個々の文化財の確実な保存・活用だけでなく、さまざまな主体が連携して地域ぐるみで歴史文化を活かしたまちづくりを進めていくことができます。本市では、学生やボランティアガイドと協力して市民目線の文化財を反映したデータベースを作っています。また、大学と連携して、市外から見た本市の歴史資源の新たな魅力を発掘しながら、学識経験者や地域関係者を交えた「長岡京市文化財保存活用推進会議」により計画を作成してまいります。

みんなで長岡京市をイメージアップ！



長岡京市の文化財の特色を活かした事業等を実施してまいります。

STEP 1 (R2 年頃) Start!

文化財データベースの作成

- これまでの資料（市史等）に基づく総合的な調査
- 態勢的な現地調査などによる文化財の概要把握

STEP 2 (R3 年頃) 市民参加型調査

ワークショップ・パブリックコメント

- 事前調査に基づく大学と連携したフィールドワーク
- 京華府立大学、長岡京市ふるさとガイドの会と連携
- 関連文化財部（テーマやストーリー）などを設定

STEP 3 (R4 年頃) Finish!

文化庁長官の認定

- 保存活用の具体的な取組みを検討
- 保存活用推進会議（協議会）の開催
- 計画最終案作成・文化庁へ認定申請

参加しよう！

Event イベント情報。

1



京都府立大学の学生とふるさとガイドの会がそれぞれの目線で、地域の歴史文化を掘ってきた成果を話しています。

『長岡京市文化財保存活用地域計画』 フィールドワーク公開報告会

- 日時 令和3年7月31日(土) 午後2時～3時30分
- 場所 長岡京市立図書館3階大会議室
- 内容 『長岡京市文化財保存活用地域計画』の作成に向けて、外から見たまちの魅力資源の新たな活用を検討していきます。
- コーディネーター 京都府立大学准教授 上杉和央さん
- 問い合わせ 長岡京市教育委員会文化財保存活用課

☎075-954-3557 / E-mail: bunkazai@ctij.nagaokakyo.lg.jp

7月5日午後5受付開始!

要申込み
先着20名
無料

2



長岡京市特別歴史講演会



勝龍寺城はその後の城郭の標準となる当時最先端の城。中井先生には、発掘調査成果をもとに、城郭研究の視点でご講演いただきます。

『勝龍寺城—石垣・瓦・天主の出現—』

- 日時 令和3年9月1日(水) 午後1時30分～3時10分
- 場所 長岡京市立中央公民館 市民ホール
- 講師 滋賀県立大学名誉教授 中井均さん
- 主催 NPO 法人長岡京市ふるさとガイドの会
- 共催 長岡京市教育委員会
- 後援 長岡京市観光協会
- 問い合わせ NPO 法人長岡京市ふるさとガイドの会の高橋さん ☎090-7366-3107

要申込み
抽選で65名
資料代500円

市指定文化財が増えました！

令和3年(2021)2月1日、勝龍寺城土塁・空堀跡を「遺構、出土遺物において学術上価値ある遺跡」として市の史跡に指定しました。

『勝龍寺城土塁・空堀跡』ってなに？

勝龍寺城土塁・空堀跡は、元龜2年(1571)に、当時一帯を治めていた細川藤孝(のちの幽斎)が、城の防衛のために築いたものと考えられています。東西に約50m、堀の底からの高さは6mが残っています。空堀には土橋がかけられ、北側から侵入してくる敵を横から狙って攻撃できるしくみ(横矢掛かり)となっています。現在は、「神足(土塁)公園」として整備されています。



長岡京市公式
YouTubeチャンネルへ

今年の4月から「文化財保存活用課」が新設されました。これまで以上に文化財を身近に感じてもらえるように様々な情報を配信していく予定です。今年度も、これらもご愛読ください。なお、『Moshi-mosu(もしもす)』は、長岡京市教育委員会が発行する歴史・文化財情報紙です。「もしもす」とは、「もっと知れば、もっと好きになる」の意味です。これまでのバックナンバーは、市のホームページでご覧いただけます。

『Moshi-mosuⅢ』vol.17

発行：長岡京市教育委員会文化財保存活用課 京都府長岡京市天神4丁目1番1号/令和3(2021)年6月